

教育研究等活動業績

山梨英和大学

フリガナ 氏名	性別	生年(西暦)	職名	所属
イ サンジン 李 尚珍	女	非公表	教授	人間文化学部人間文化学科
取得学位称号	博士(人文科学)	専門分野	東アジア史	
学 歴	1995年 4月 宇都宮大学国際学部国際文化学科入学 1999年 3月 宇都宮大学国際学部国際文化学科卒業(国際学学士) 1999年 4月 宇都宮大学大学院国際学研究科博士前期課程入学 2001年 3月 宇都宮大学大学院国際学研究科博士前期課程修了(国際学修士) 2001年 4月 お茶の水女子大学大学院人間文化研究科博士後期課程入学 2008年 3月 お茶の水女子大学大学院人間文化研究科博士後期課程修了(人文科学博士)			
実 務 経 験	2005年 10月 宇都宮大学国際学部非常勤講師(2011年3月まで) 2008年 4月 山梨英和大学人間文化学部人間文化学科助教(2012年3月まで) 2012年 4月 山梨英和大学人間文化学部人間文化学科准教授(2019年3月まで) 2014年 10月 放送大学非常勤講師(2015年3月まで) 2019年 4月 山梨英和大学人間文化学部人間文化学科教授(現在に至る)			
受 賞 歴	2016年 4月 山梨英和大学第2回ベストエデュケーター賞受賞			
所 属 学 会	2001年 4月 朝鮮学会会員(日本、現在に至る) 2002年 4月 韓国・朝鮮文化研究会会員(日本、現在に至る) 2002年 10月 朝鮮史研究会会員(日本、現在に至る) 2011年 4月 日本比較文化学会会員(日本、現在に至る) 2011年 4月 東アジア日本学会会員(韓国、現在に到る) 2015年 8月 韓国日本文化学会会員(韓国、現在に至る) 2022年 1月 在外韓人学会理事(韓国、現在に至る)			
特 免 資 許 許 格 等 ・ ・	特になし			
e-mail	非公表			

目 次

○教育業績

教育理念、方針、方法

教育能力

教育方法実践例

作成した教科書、教材等

教育方法や実践に関する発表、講演等

担当授業科目

代表的なシラバス

教育改善活動

教育能力に対する評価

○研究業績

研究の特徴

研究経歴

研究実績

著書

学術論文

その他の研究活動

競争的資金採択課題

学会等発表、役員参加

共同研究・受託研究の実績

大学院生指導

研究能力に対する評価

○サービス活動業績

学内委員会・作業部会等活動実績

アドバイザー活動実績

後進育成活動実績

社会貢献活動

○専門的活動(教育業績、研究業績、サービス活動業績)の統合による成果と目標

専門的成果

専門的目標

○添付資料

略

教育業績

<p>教育理念、方針、方法</p>	<p>教育理念は創造力・豊かなコミュニケーション力・グローバルな視野を持つ人間性豊かな人材を育成することである。具体的な方針・方法として2つの分野にわけて考えている。</p> <p>(1)まず、文化・歴史に関する教育においては、これまでの教育の中で得られた成果をもとに受講生が「文化」と「歴史」の概念を理解したうえで、日本と韓国における思想の特殊性と相関性、過去と現状を正確に認識し、一方的ではなくて複眼的・多角的な見方ができるように指導する。</p> <p>(2)次に、韓国語に関する教育においては、「読む・書く・聞く・話す」の基本学習の他、会話と講読の演習を行い、韓国語文献の講読から作文などの表現力・応用力を身につけるように指導し、さらに韓国語の誕生と使用の背景を含む韓国の歴史や社会、文化などの学習内容を取り入れて、専門分野の研究に取り組めるアカデミックな環境の整備・充実に取り組む。</p>
<p>教育能力</p>	<p>(1)教育方法実践例</p> <p>a.山梨英和大学の担当科目の授業において、①身近にある映画やドキュメンタリー、新聞記事、書籍などを通して、日韓の文化・歴史・思想がテーマとなる具体的な事案を学生たちと一緒に考えながら、学生自らが興味を持つことを見つけて、積極的に研究できるような環境を提供している。また、②問題提起、課題認識、資料収集、文献調査・分析、レジュメ作成、発表、討論、レポート作成などによって、各自の問題意識を明確にし、その疑問を解明していく姿勢を身につけるようにしている。</p> <p>b.海外短期研修(「アジア短期留学Ⅱ韓国」)においては、本学の参加学生たちが留学先の学生たちと積極的に交流しながら、勉学意欲を高めるように指導している。そして、異文化間のコミュニケーション方法として語学学習の重要性を認識し、全体的な学習意欲につながっていくようにサポートしている。なお、「アジア短期留学Ⅱ韓国」の参加学生のうち数名がこれまでに、韓国の協定校(漢陽女子大学、忠南大学、建陽大学)に1年間あるいは半年間の交換留学生として派遣されており、短期研修から中・長期交換留学へと学生たちの学術的・国際的交流が進んでいる。</p> <p>(2)作成した教科書、教材等 特になし</p> <p>(3)教育方法や実践に関する発表、講演等</p> <p>a.「国際交流とは何かを考える」栃木県立栃木南高等学校教育講演会(2005年6月)</p> <p>b.「人権教育とは何か」栃木県立高根沢商業高等学校教育講演会(2005年9月)</p> <p>c.「平和をどう考えるか」茨城県立八千代高等学校総合的学習の時間の講演(2005年12月) ⇒これら3つの講演会では、大学進学や就職を希望する高校生が、どのように「国際理解や国際交流を深める」べきか、あるいは「外国人から見た人権教育とは何か」、「平和とは何か」という問題について、自身の体験をもとに講演した。また、高校生や大学生が、身近にいる留学生との交流を通して「平和」と「共存」について理解し、自らできることは何か、を考え、見つけ、行動することが「国際理解」の出発点であることについて質疑応答などをまじえて議論した。</p> <p>d.「朝鮮を愛した甲州人・浅川巧ーその心の軌跡ー」山梨県立農林高等学校PTA・教職員研修会(2010年7月)⇒2009年6月15日に山梨県立農林高校の全校生向けに卒業生浅川巧と韓国について話したが、保護者と教職員が生徒たちと共有できるような話題が提供できるように話した。</p> <p>e.「朝鮮の土となった日本人・浅川巧が現代の私たちに問いかけるもの」未来をひらく歴史～東アジア3国の近現代史第16回学習会(2010年7月)⇒主に中学校高校の教員たちが参加し、歴史教育に関する話や浅川巧のような明るいテーマが及ぼす教育上の影響について話し合った。</p>
<p>担当授業科目</p>	<p>2022年度: アジア短期留学Ⅱ(韓国)、国際交流論、アジアの社会と文化Ⅱ、民族と社会Ⅱ、特別講義Ⅰ 韓国語1、2、3、4、展開ゼミナール、専門ゼミナール、卒業プロジェクト研究</p>
<p>代表的シラバス</p>	<p>科目:国際交流論</p> <p>・概要:なぜ、日韓両国の間に「歴史認識」や「歴史教科書」等が繰り返し問題とされるのでしょうか。両国の文化交流に長い歴史があるとは言え、過去の一時期における植民地統治の出来事が、それぞれの国民に否定的なイメージや先入観を与えてきたからではないのでしょうか。韓国の高校の歴史教科書に「肯定的」で紹介された日本人もいます。韓国が日本の植民地であった時代に韓国の陶磁器や民芸品の美術的価値を見出して世に知らしめた柳宗悦や浅川伯教・巧兄弟(山梨県出身)です。この授業では、現代から近世へと時代を遡りながら、日韓文化交流における「明るいテーマ」を見つけていきます。</p>

<p>代表的シラバス</p>	<p>・授業展開方法:①毎回グループワークを行い、各自の意見や疑問点等をまとめて発表してもらう。②受講生が自主的に興味のあるテーマについて調査・発表する時間を設ける。③そして、その内容について意見交換をし、討論する。資料収集・発表方法についてはサポートする。</p> <p>・到達目標:①これまでの日韓関係について理解することができる。②日韓交流における明るいテーマに関心を持ち、今後のあり方について認識することができる。③国際的な視野を広げ、異文化理解とその方法について関心を持つことができる。</p>
<p>教育改善活動</p>	<p>1)2009年度、2010年度には教育改善(FD)委員会の委員として学内におけるFD活動に携わった。具体的には授業評価アンケートの結果を分析し、全体の問題改善に取り掛かり、評価の高かった授業を公開してもらい、参考とした。そして、アンケート実施方法の改善を図り、客観性の確保と効果的なフィードバック方法を確立した。さらに、外部の専門家を招いてFD講演会・研修会を開き、全教職員が共有できるモデルを作った。</p> <p>2)2016年4月、受講生による授業評価により山梨英和大学第2回ベストエデュケーター賞を受賞した。教育方法について受講生の評価があるものと見受けられる。今後も受講生の意見を聞きながら改善していく。</p>
<p>教育能力に対する評価</p>	<p>a.授業全体の評価(授業評価アンケートより): 2022年度の担当の全科目において5点満点のうち、平均4点以上の評価が得られて、受講生の満足度が高かったと考えられる。</p> <p>①(展開ゼミナール2G)「他の授業ではやらないようなグループ活動や人の前で話をするなどの授業内容だったため、プレゼンとかの練習になった点で満足した。」、 ②(国際交流論)「毎回の授業のフィードバックで他の受講生の多くの意見をきけて、さまざまな視点からの意見を知れたこと。」、 ③(韓国語2A)「一人ひとりを見てくれ、対応して下さったので間違っているスペルや発音を正していただけて良かったです。また、韓国語という語学からだけではなく様々な文化や歴史も交えながらの学習が非常に楽しかったです。」、 ④(韓国語4)「教科書に書いてあることを丁寧に説明して頂いたり、ネイティブの観点からよく使われる表現を教えてもらえた。また、教科書を活用して例文を作るのが難しいかったが力を伸ばせた。」、 ⑤(卒業プロジェクト研究IVM)「授業を通して、自分の興味のある分野を見つけることができた。主に韓国について学ぶゼミで、韓国人の先生から授業でしかなかなか学べない内容や、文化について知ることができた。また、論文の書き方やメールの書き方などもゼミを通して学ぶことができた。」などのような評価の意見が多くあった。</p> <p>b.良い点・改善してほしい点(授業評価アンケートより): 良い点は ・「毎回の授業のフィードバックで他の受講生の多くの意見をきけて、さまざまな視点からの意見を知れたこと」、 ・「日韓の関係、歴史について分かり易いスライドで紹介して下さった点」 ・「一人一人の発音チェックがあったので自分のどこが不足しているかがわかりやすかった。」などが挙げられて、視聴覚教材活用の効果と一人一人に対する指導の効果が確認できたと思う。 改善してほしい点は、 「授業のフィードバックで時間を少し取りすぎていると思う」とあって、授業内の時間配分を考慮していきたい。</p> <p>(2)同僚教員等による授業評価 現在行われていない。</p>

研究業績

研究の特徴	<p>a.日本による植民統治期の在朝鮮日本人浅川伯教・巧兄弟に関する研究を続けている。この研究は、浅川兄弟の朝鮮伝統工芸研究の特質を分析し、そこから異文化としての朝鮮理解の方法の今日的意義を検証するものである。その具体的内容は、兄弟の朝鮮移住の動機、在朝鮮日本人としての当時の植民統治期の特殊な時代状況の認識、さらに兄弟の伝統工芸研究を通しての朝鮮理解の方法とその背景を探究するものである。また、明治から昭和の激動する社会的背景の中での兄弟の思想的基盤の歴史的特質についても研究を進めている。本研究の重要な方法論的特徴は、兄弟のフィールドワーク研究の方法(Field-oriented Approach)及びその特質を検証することによって、彼らの朝鮮伝統工芸研究の朝鮮理解における位置づけについての研究成果をあげることにある。</p> <p>b.植民統治期以後の日本と朝鮮半島の諸問題に関心を持ち、帰国問題の始まりについて1955年後の日朝関係を再検討することで、北朝鮮が帰国事業を始めた主な理由が、これまで言われていたような労働力の移入ではなく、対日国交正常化のためのパイプ作りにあったこと等を明らかにし、日朝協会や韓国マスコミなど、これまで正面から取り組まれたことのなかったテーマについて研究している。</p> <p>c.朝鮮美術界と朝鮮美術展覧会における「郷土性」概念の台頭に日本留学経験者が与えた影響を明確にし、1920年代の柳宗悦と浅川伯教・巧兄弟の朝鮮伝統工芸研究活動が朝鮮美展の「工芸部」新設に影響を与えたこと、そして、それによって「郷土性」概念がどのように認識されていったのかについて明らかにしていく。</p>
研究経歴	<p>1999年 宇都宮大学大学院国際学研究所博士課程前期の在学中より現在まで在朝鮮日本人浅川伯教・巧兄弟)研究に取り組んでいる。</p> <p>2005年 『帰国運動とは何だったのか—封印された日朝関係史—』(共著、平凡社、2005年5月)の執筆より現在まで在日韓国人に関する研究に取り組んでいる。</p> <p>2011年 朝鮮美術界と朝鮮美術展覧会における「郷土性」概念の台頭に日本留学経験者が与えた影響を明確にし、1920年代の柳宗悦と浅川伯教・巧兄弟の朝鮮伝統工芸研究活動が朝鮮美展の「工芸部」新設に影響を与えたこと、そして、それによって「郷土性」概念がどのように認識されていったのかを明らかにする研究に取り組んでいる。</p>
研究実績	<p>(1) 著書</p> <p>a. 共著『帰国運動とは何だったのか—封印された日朝関係史—』平凡社、高崎宗司・朴正鎮編著、2005年5月pp.235-267、pp.325-339。</p> <p>b. 共編『回想の浅川兄弟』草風館、高崎宗司編、2005年9月、pp.296-305。</p> <p>c. 共訳『韓洪九の韓国現代史Ⅰ—韓国とはどういう国か』平凡社、2003年12月pp.252-292。</p> <p>d. 共訳『韓洪九の韓国現代史Ⅱ—負の歴史から何を学ぶのか』平凡社、2005年7月、pp.286-318。</p> <p>e. 共編『韓国民芸の旅』草風館、2005年12月。</p> <p>f. 共著「浅川兄弟、その魂の源流を訪ねて」『浅川伯教の眼+浅川巧の心』里文出版、2011年7月、pp.63-89。</p> <p>g. 共著(韓国語)「浅川伯教・巧兄弟の朝鮮理解」『柳宗悦と韓国』ソミョン出版、2012年12月、pp.91-125。</p> <p>h. 共訳(韓国語)『浅川巧の日記と書簡』草風館、山梨県北杜市刊行、2014年3月。</p> <p>(2) 学術論文</p> <p>a. 「浅川巧の朝鮮観—植民地時代におけるその業績を中心に—」『人間文化論叢』第4巻(お茶の水女子大学大学院、外部審査付)2002年3月、pp.289-299。</p> <p>b. 「浅川巧—その異文化理解モデルの今日的意義—」『人間文化論叢』第5巻(お茶の水女子大学 大学院、外部審査付)2003年3月、pp.243-252。</p> <p>c. 「キリスト者浅川巧の苦悩—その宗教観を中心に—」『人間文化論叢』第6巻(お茶の水女子大学 大学院、外部審査付)2004年3月、pp.177-186。</p> <p>d. 「浅川伯教と朝鮮—植民地期の朝鮮陶磁研究を中心に—」『人間文化論叢』第7巻(お茶の水女子大学大学院、外部審査付)2005年3月、pp.315-324。</p> <p>e. 「浅川伯教の朝鮮工芸論」『人間文化論叢』第8巻(お茶の水女子大学大学院、外部審査付)2006年3月、pp.249-258。</p> <p>f. 「在朝鮮日本人浅川伯教・巧兄弟の朝鮮理解—植民地期における兄弟の朝鮮伝統工芸研究を中心に—」『朝鮮学報』第205輯(朝鮮学会、審査付)、2007年10月、pp.137-170。</p> <p>g. 「浅川伯教・巧兄弟の朝鮮理解の意義」『人間文化論叢』第10巻(お茶の水女子大学大学院、外部審査付)2008年3月、pp.1-10。</p>

研究実績

- h.『浅川伯教・巧兄弟の朝鮮理解に関する研究—植民統治期における兄弟の朝鮮伝統工芸研究を素材として』お茶の水女子大学大学院人間文化研究科人文科学博士学位論文、2008年3月、pp.1—200。
- i.『柳宗悦の朝鮮伝統芸術研究—浅川伯教・巧兄弟との繋がりを中心に—』『山梨英和大学紀要』第8号（山梨英和大学）2010年2月、pp.51—64。
- j.『浅川巧の異文化理解モデルに関する一試論』『山梨英和大学紀要』第9号、2011年2月、pp.53—68。
- k.『朝鮮美術展覧会の実相に関する一考察』『(韓国)東アジア日本学会』2011年10月、pp.431—453、審査付。
- l.『柳宗悦と浅川伯教の『朝鮮美術観』に関する一考察—「朝鮮民族美術館」の設立過程を中心に—』『比較文化研究』No.116、日本比較文化学会、2015年4月30日、pp.55-68、審査付。
- m.『植民統治期の朝鮮社会における朝鮮美術展覧会の受容に関する一考察』『比較文化研究』No.118、日本比較文化学会、2015年10月31日、pp.23-37、審査付。
- n.『朝鮮美術展覧会における「郷土」概念—朝鮮美術展覧会の初期の動向を中心に—』『比較文化研究』No.123、日本比較文化学会、2016年10月31日、pp.1~12、審査付。
- o.『朝鮮美術展覧会の「郷土性」概念—「工芸部」新設前後の変化を中心に—』『日本文化学報』第75輯、韓国日本文化学会、2017年11月、pp.357~379、審査付。
- p.『在朝鮮日本人浅川伯教・巧兄弟と柳宗悦の朝鮮伝統文化理解の特質—初期の活動を中心に—』韓国日本文化学会『日本文化学報』第79輯、2018年11月、pp.5~31、審査付。
- q.論文「柳宗悦の朝鮮理解の特質—朝鮮関連初期の著作を手がかりに—」『日本文化学報』韓国日本文化学会第87輯、2020年11月30日発行、pp.93-106、審査付。
- r.特集「浅川伯教・巧兄弟」李尚珍他共著、『キリスト教史学』キリスト教史学会、2021年7月、pp.3-20。
- (3)その他の研究活動(国際会議発表、学術誌編集、学術論文査読等)
- a.『日韓文化交流のモデルとなる日本人・浅川巧』富士ゼロックス小林節太郎記念基金2004年研究調査報告書
- b.『植民地朝鮮における浅川伯教・巧兄弟と柳宗悦の民芸運動—その今日的意義を中心に—』お茶の水女子大学大学院「魅力ある大学院教育」イニシアティブ・プログラム調査報告書
- c.宇都宮大学国際学部国際シンポジウム<多文化公共圏を考える—国際学の構築に向けて> パネルディスカッション「多文化公共圏における異文化理解モデルとしての浅川巧」2009年11月
- d.『比較文化研究』第139号(2020年、日本比較文化学会)編集。
- e.『比較文化研究』第145号(2021年、日本比較文化学会)編集。
- f.日本比較文化学会『比較文化研究』第145号(2021年)、論文2編査読。
- g.日本比較文化学会『比較文化研究』第151号(2022年)、論文1編査読。

競争的資金採択課題

- a.2004年7月～2005年6月富士ゼロックス小林節太郎記念基金研究題目「日韓文化交流のモデルとなる日本人浅川巧」100万円
- b.2005年7月～2006年6月富士ゼロックス小林節太郎記念基金研究題目「日韓文化交流のモデルとなる日本人 浅川伯教・巧兄弟」100万円
- c.2005年12月～2006年3月お茶の水女子大学大学院<魅力ある大学院イニシアティブ: <対話と深化>の次世代女性リーダーの育成プログラム>研究題目「植民地朝鮮における浅川伯教・巧兄弟と柳宗悦の民芸運動—その今日的意義を中心に—」30万円
- d.2014年4月～2016年3月 科学研究費助成事業・基盤研究(C)研究題目「朝鮮美術展覧会の工芸部新設と郷土性議論」351万円

学会等発表・役員参加	2001年 10月	「浅川巧の民芸観—植民地期の朝鮮におけるその業績を中心に—」 第52回朝鮮学会全国大会
	2002年 2月	「浅川巧の朝鮮観」第30回インター・ユニ哲学研究会
	2002年 10月	「浅川巧と日韓文化交流」第3回韓国・朝鮮研究会
	2002年 10月	「浅川巧—その異文化理解モデルの今日的意義」第53回朝鮮学会全国大会
	2010年 10月	「浅川伯教と朝鮮美術展覧会」第61回朝鮮学会全国大会
	2013年 10月	「朝鮮美術展覧会における『工芸部』と『郷土性』」第64回朝鮮学会全国大会
	2014年 6月	「日本人の『朝鮮美術』に関する一考察—植民地期における柳宗悦と浅川伯教の「朝鮮美術」の比較を中心に—」第36回日本比較文化学会全国大会
	2015年 6月	「朝鮮美術展覧会に関する一考察—本展覧会は植民統治期の朝鮮社会にどのように受容されたか—」第37回日本比較文化学会
	2015年 10月	「柳宗悦の朝鮮認識—初期の活動を中心に—」第66回朝鮮学会全国大会
	2015年 10月	「朝鮮美術展覧会における「郷土色」議論に関する一考察」第49回韓国日本文化学会学術大会(韓国)
	2016年 3月	「朝鮮美術展覧会における「郷土色」に関する一考察」日本比較文化学会第43回関東支部例会
	2016年 4月	「朝鮮美術展覧会における「工芸部」と「郷土色」に関する一考察」第50回韓国日本文化学会学術大会(韓国)
	2016年 5月	「朝鮮美術展覧会と表象—作品における「郷土色」表現を中心に—」第38回日本比較文化学会国際学術大会
	2016年 10月	「朝鮮美術展覧会と郷土性」朝鮮学会第67回全国大会
	2017年 5月	「朝鮮美術展覧会と女流画家・羅蕙錫」日本比較文化学会第39回全国大会
2017年 10月	「朝鮮美術展覧会の「工芸部」に関する一考察」第68回朝鮮学会全国大会	
2018年 5月	「在朝鮮日本人浅川伯教・巧兄弟と「朝鮮民族美術館」—柳宗悦との共同活動を中心に—」東アジア日本学会(韓国)2018年春期連合国際学術大会	
2019年 5月	「日韓相互理解モデル・浅川巧」日本比較文化学会第41回全国大会	
学会等発表・役員参加	2019年 9月	「柳宗悦の韓国関連初期著作にみる韓国理解の方法論」第57回韓国日本文化学会学術大会(韓国)
	2020年 4月	日本比較文化学会関東支部編集委員会委員(現在に至る)
	2022年 1月	在外韓人学会理事(韓国、現在に至る)
	2022年 4月	「日韓相互理解の象徴—浅川巧」在外韓人学会2022年度国際学術大会
	2022年 5月	「柳宗悦と浅川巧の朝鮮理解に関する考察」東アジア日本学会(韓国)2022年春期連合国際学術大会
2022年 10月	招待研究発表「在朝鮮日本人・浅川兄弟と朝鮮白磁」2022年度国際工芸学術シンポジウム(ソウル工芸博物館・(社団法人)韓国美術史学会共催)	
受託共同研究の実績	年 月	
	年 月	
	年 月	特になし
	年 月	
	年 月	

大学院生指導	特になし
に研究 評価 する 力	特になし

サービス活動業績

学内委員会・作業部会等 活動実績	2008年	4月	入試委員会、入試実務委員会、国際交流委員会の委員(2011年3月まで)主に外国人留学生の入試と韓国の協定校の現地入試に関わってきたが、入試に限らず、入学後の両国の学生たちの積極的な国際交流にも繋がっていき、交換留学・短期研修などの学術交流にも発展していけるように努めた。
	2008年		オープンキャンパス模擬授業「面白い韓国語・楽しい韓国」「韓国語と日本語は本当に似てる?」(毎年1回担当、現在に至る)
	2009年	4月	FD委員会の委員(2010年3月まで) 授業アンケートの有効的な活用とFD研修会の効率化のために努めた。
	2011年	4月	図書館運営委員会、紀要委員会の委員(2012年3月まで)
	2011年	4月	宗教委員会の委員(2013年3月まで)、広報戦略部の委員(2016年3月まで)
	2012年	4月	学長特別補佐(国際交流-韓国担当、2016年3月まで)
	2014年	4月	学生サービス部運営委員会委員(2020年3月まで)
	2016年	4月	国際交流担当主任(韓国担当)(現在に至る)
	2019年	4月	国際交流室室長(2021年3月まで)
	2020年	4月	グローバルスタディーズ領域領域長(現在に至る)
	2020年	4月	大学経営協議会・大学運営評議会委員(現在に至る)
	2020年	4月	学部入学者選抜会議委員・大学院入学者選抜会議委員(現在に至る)
	2021年	4月	入試広報部運営委員会委員(2022年3月まで)
	2022年	4月	学生部運営委員会委員(2023年3月まで)
	2022年	4月	カリキュラム委員会委員(現在に至る)
	2022年	4月	中長期経営計画実行委員会委員(現在に至る)
	2022年	4月	危機管理委員会委員(現在に至る)
アドバイザー活動実績	外国人留学生たちのアドバイザー(2008年4月～2016年3月)、国際交流サークルの顧問(2012年3月～2015年3月)、1年次・2年次の日本人学生と外国人留学生のアドバイザー(2012年4月～2016年3月)、1年次・2年次の日本人学生のアドバイザー(2021年4月～2023年3月)、また、3年次専門ゼミナール・4年次卒業プロジェクト研究の受講生達のアドバイザー(2010年4月～現在)として学習や進路に関する指導を行っている。さらにオフィスアワーの設定、メールによる学生の申し入れ(日程や相談内容など)によって、一人一人の時間の都合や面談内容に対応できるように努めている。		
後進育成活動実績	特になし		

(1) 講演会

韓国の日本大衆文化開放や日本の韓流ブームが始まり、各界の活発な交流が行なわれているが、こういう時にこそ両国のしっかりした歴史学習が必要である。両国民の歴史認識には曖昧かつ偏見的なものがいまだ残っていることが否定できないからである。ここで、韓国の文化と人々を愛し、韓国の人々に愛され、さらにいま日韓両国の多くの人々に敬愛されている日本人浅川伯教・巧兄弟の行跡を通して、当時の時代背景を再認識した。なお、当時、兄弟と付き合った韓国人の子孫たちがソウル市にある巧の墓を管理していることから、代々に受け継がれている歴史の明るい一面を共有し、歴史の学問領域に対する関心を高めるとともに、私自身の研究成果の公開の場となった。

- 2004年 2月 「浅川巧—その人と業績—」日本コリア協会・大阪第46回総会記念講演
- 2005年 7月 「浅川巧—韓国教科書に載った日韓相互交流のパイオニア」
宇都宮大学教科書問題を考える講演会
- 2006年 6月 「回想の浅川巧」平成18年度浅川伯教・巧兄弟を偲ぶ会記念談話
- 2008年 6月 「浅川兄弟の異文化理解」平成20年度浅川伯教・巧兄弟を偲ぶ会記念談話
- 2009年 5月 大阪市立東洋陶磁美術館テーマ展「浅川伯教が愛した韓国のやきもの」
記念講演会
- 2009年 6月 「日韓文化交流における知られざる若きヒーロー—浅川巧の生涯」
浅川巧・山梨県立農林高等学校卒業100周年記念事業講演会
- 2009年 11月 「宇都宮大学ブランドを考える—宇都宮大学のさらなる発展と創造へ向けて—」
宇都宮大学創立60周年記念シンポジウム
- 2010年 2月 「浅川巧の眼と心」山梨県立美術館日韓交流エコアート特別シンポジウム講演
- 2010年 6月 「浅川兄弟研究の歩み」山梨平和ミュージアム山梨平和を願う戦争展記念講演
- 2010年 9月 「柳宗悦と浅川兄弟」我孫子市制40周年記念・雑誌「白樺」創刊百周年記念講演
- 2012年 2月 「浅川伯教・巧兄弟と朝鮮・韓国—ひと・自然との出会いから工芸研究まで—」
栃木県立美術館浅川巧生誕120周年記念展覧会記念講演
- 2013年 11月 「『浅川巧日記』を翻訳して」山梨民芸協会講演会
- 2014年 3月 「『浅川巧日記と書簡』を韓国語に翻訳して」山梨平和ミュージアム講演会
- 2015年 10月 「甲州人浅川巧と韓国」韓国領事館主催〈韓国との出会い～韓国について理解を深めよう！～〉
- 2018年 6月 2018年6月2日、やまなし金子文子研究会主催歴史講演会「浅川巧と朝鮮・韓国」(於、山梨英和大学)
- 2018年 9月 「浅川伯教・巧研究」2018年度日本民藝協会夏期学校講演

(2) 出前講座

人権と日韓交流をテーマとする講座で、外国人としての私の日本生活・体験と研究テーマの浅川兄弟にみる異文化＝韓国理解について話し、「共に生きる」ことについて参加者たちと議論した。

- 2006年 2月 「開かれた韓国・朝鮮の今」東大和市歴史講座5回
- 2008年 10月 「日韓文化交流における知られざる若きヒーロー」韮崎高等学校「個性を育てる学習サポート」
- 2009年 9月 「私の自分史を語る」東大和市職員組合主催「人権&国際交流講座」
- 2011年 9月 リトリート「神を信じ、平和を作り出した人々に学ぶ—浅川伯教・巧兄弟」(於、山梨英和中学校)
- 2011年 11月 「神を信じ、平和を作り出した人々に学ぶ—浅川巧」山梨英和中学校(毎年実施、現在に至る)
- 2012年 10月 「韓流ブームっていつから？日韓関係を遡って見れてくるものは？」山梨県立甲府東高校
- 2013年 9月 リトリート「神を信じ、平和を作り出した人々に学ぶ—浅川伯教・巧兄弟」(於、山梨英和中学校)(毎年9月実施、現在に至る)
- 2014年 1月 「甲州人・浅川巧にみる日韓交流」関東甲信越静地区高等学校国際教育研究協議会
- 2018年 5月 体験授業「お隣の韓国は面白い国？」(於、山梨県立甲府城西高校)10月も実施

(3) 公開講座

この6つの講座では、博士論文『浅川伯教・巧兄弟の朝鮮理解に関する研究—植民統治期における兄弟の朝鮮伝統工芸研究を素材として—』において解明した兄弟の朝鮮伝統工芸研究の特質とその展開過程、そこから異文化としての朝鮮理解の方法論について話し、高校生から社会人までの講座参加者たちと、今後の日韓相互理解について議論し、歴史認識を高める内容とした。

- 2005年 2月 「朝鮮の風土を愛し、朝鮮の土となった日本人～浅川巧」東京東大和市民館歴史講座：人物史から見た韓国・朝鮮と日本の友好
- 2006年 10月 「浅川巧の朝鮮観」浅川伯教・巧兄弟記念講座（浅川伯教・巧兄弟資料館）
- 2009年 1月 「浅川兄弟にみる異文化理解」浅川伯教・巧兄弟記念講座（浅川伯教・巧兄弟資料館）
- 2011年 2月 「浅川伯教・巧兄弟にみる異文化理解」NPO法人高麗博物館文化講座
- 2011年 8月 「浅川巧と兄伯教—日本と韓国のマウメダリ（心の架け橋）」高麗美術館研究講座
- 2012年 10月 「浅川伯教・巧兄弟について」公益社団法人甲賀・湘南人権センター
＜人権・平和・環境を考える講座＞
- 2019年 2月 「甲州人・浅川巧の日記にみる『日韓物語』」県民コミュニティーカレッジ・大学コンソーシアムやまなし

(4) 学外審議会・委員会等

- 2006年 4月 宇都宮大学大学院国際学研究科外部評価委員(2007年3月まで)
- 2013年 4月 やまなし留学生スピーチコンテスト実行委員会委員(2016年3月まで)
- 2019年 4月 やまなし留学生スピーチコンテスト実行委員会委員(2020年3月まで)

(5) その他

- 2005年 3月 書評「安達義弘—民芸運動による日韓共生の実現を求めて」『民藝』第627号、pp.58-59。
- 2005年 5月 書評「金希貞—朝鮮における柳宗悦の受容」『民藝』第629号、pp.56-57。
書評「金容菊—柳宗悦と朝鮮芸術論」『民藝』第629号、pp.57-59。
- 2005年 6月 書評「丁貴連—もう一つの旅行記—柳宗悦の朝鮮紀行をめぐる」『民藝』第630号、pp.57-58。
- 2005年 7月 書評「加藤利枝—3・1独立運動後の朝鮮芸術観と柳宗悦」『民藝』第631号、pp.64-65。
- 2005年 8月 書評「朴桂利—柳宗悦と朝鮮民族美術館」『民藝』第632号、pp.47-48。
- 2005年 9月 書評「李秉鎮—光化門と柳宗悦」『民藝』第633号、pp.55-56。
- 2005年 10月 書評「李秉鎮—『白樺派』における他者としての＜朝鮮＞—柳宗悦と浅川巧の場合」『民藝』第634号、pp.61-63。
- 2006年 6月 随筆「浅川伯教・巧兄弟、柳宗悦の足跡を訪ねる韓国の旅を終えて」『民藝』第642号、pp.57-59。
- 2006年 8月 随筆「松本民藝館—日本の中の朝鮮美術・工芸品(15)」『民藝』第644号、pp.52-53。
- 2006年 12月 書評「朴裕河著・佐藤久訳『和解のために—教科書・慰安婦・靖国・独島』」平凡社、『南日本新聞』『信濃毎日新聞』など数紙（共同通信配信）
- 2010年 8月 コラム「日韓理解の礎・浅川巧に学ぶ」『山梨日日新聞』
- 2011年 4月 コラム「異文化理解モデル—日韓交流に橋を懸けた浅川兄弟」『聖教新聞』
- 2011年 11月 テレビ山梨「ウッティ発！ かけはし 浅川兄弟からのメッセージ」収録
- 2012年 6月 テレビ山梨「ウッティ発！ 山梨も韓国が熱いセヨ！」収録
- 2012年 9月 「浅川巧と兄伯教—日本と韓国のマウメダリ（心の架け橋）」高麗美術館館報第93号（2011年8月研究講座抄録）
- 2013年 1月 富士ゼロックス小林節太郎記念基金助成対象者OB・OG寄稿
「共に生きる—浅川伯教・巧兄弟に見る日韓両国の歩み、そして私の歩み」
- 2013年 10月 2013年県民コミュニティーカレッジ講座 大学コンソーシアムやまなし「〈ことば〉の力を見つめなおす」
- 2014年 4月 やまなし留学生スピーチコンテスト実行委員会委員(2021年3月まで)

社会貢献活動	2015年 2月	「大学教員とのガールズトーク」山梨大学男女共同参画推進室(於、山梨県立図書館)
	2016年 3月	随筆「日本と韓国の柳・浅川兄弟研究—現在までの動き—」『民藝』第759号、pp.23-27
	2016年 7月	浅川伯教・巧兄弟広報大使(山梨県北杜市浅川伯教・巧兄弟を偲ぶ会、現在に至る)
	2019年 11月	「甲州人浅川伯教・巧兄弟と韓国・韓国人」(於、南甲府教会)
	2020年 8月	山梨平和ミュージアム主催講演会「日本人と韓国人の向き合い方を考える」 (於、山梨県立図書館)
	2022年 3月12日	書評「権錫永著『からまりあい重なりあう歴史』北海道大学出版会、2021年」図書新聞

成果と目標

専門的成果	<p>①これまでの異文化理解・グローバル化に関する問題点としては、①「歴史」認識と国民レベルの文化交流の具体的な提案がないことと、②学術的な位置づけが行われていないことが挙げられる。私の研究は浅川兄弟と柳宗悦が示した異文化理解の方法に含まれている科学・哲学・宗教・芸術的要素について、未発掘の資料を掘り起こして、理論的・学術的な検証を行った。この検証は、これまでの日韓関係のみならず、グローバル化における異文化理解・文化交流論に関する問題点の改善方法と将来への提案を含んでいることにおいても重要な意義がある。</p> <p>②私が実施してきた日韓両国におけるフィールドワークはこれまでの歴史研究の文献研究にみられる限界を克服する有意義かつ効果的な手法である。このような特色を有する私の研究は様々な認識の相違点を内包している日韓近代史研究の中にあって、際立って日韓文化交流の「特殊性」「相互関係性」「積極性と実践性」を明示し、さらに単に日韓関係に限らず、人間と歴史の「連続性」「普遍性」にも視角を拡大させる可能性を持っている。</p> <p>③私の研究成果として提示できた浅川兄弟にみる新時代の「異文化理解モデル」は、日韓歴史教育における新たな視点を提供できるとともに両国の若い世代の交流に具体的なモデルを示すことができる。そして、本学が求めている「国際的な視点でものを考え」、「自らの立脚点をしっかりと見据えて地域社会と密接に連携しつつ」、「世界の平和と安定のために活躍する」人材の育成のための教育指導にも活かしていけることと確信している。</p>
専門的目標	<p>①これまで一貫して研究してきた浅川伯教・巧兄弟と柳宗悦の韓国＝異文化理解の方法は、今後の研究計画においても「多文化共生」・「異文化理解」にとって実践的に生成・発展させていく可能性を持っている。また、今後の研究から予想される成果は、「浅川モデル」を東アジアから世界へ提唱できる「グローバルな文化交流モデル」として構築することである。これらは歴史研究及び人物研究、日韓の伝統文化研究分野における新たな視点を提供することができる。さらに、日韓近代史研究分野の活発な議論を促し、学会発表やシンポジウム、講演会、公開講座などにおける研究成果発信を積極的に行う。なお、科学研究費等の競争的資金・外部研究費の獲得のために、研究内容の独自性を図り、質の向上に努めていく。</p> <p>②文化・歴史に関する教育においては、これまでの教育の中で得られた成果をもとに国際的な人材育成・教育指導を目指し、歴史的な背景から現在に至るまでの文化交流の現状を認識し、複眼的・相対的探究ができるように指導していく。各科目に対応できる効率的な教材制作に取り組んでいく。</p> <p>③韓国語に関する教育においては、「読む・書く・聞く・話す」の基本学習のほか、会話と講読の演習を行い、韓国語文献の講読から手紙や作文作成などの表現力・応用力・コミュニケーション力を身につけて、グローバルな人材として育成することを目指す。さらに、協定校への短期研修・交換留学にもつながるようにレベルアップのための教授法を工夫し、教材制作にも力をいれていく。</p>

作成基準日	2023年3月31日
-------	------------